

WANTED

宇城市で被害をもたらす主な鳥獣と市内の農作物被害額
(令和元年度)



熊本県博物館ネットワークセンター 収蔵剥製

市内の農作物被害額の推移

イノシシの捕獲頭数が増え、その被害額は減少傾向にあるが、シカやカモなどの新しい被害が増え、被害額は年々増加傾向にある。

5,641 万円 H29
6,295 万円 H30
6,575 万円 R1

野生鳥獣による市内の農作物被害状況

金額 6,576万円
被害量 276トン
被害面積 19万1,600㎡
(令和元年度)

市が認定する有害鳥獣と令和2年度の捕獲頭数

・イノシシ 2,410頭
・シカ 686頭
・アナグマ 57頭



松橋ゴルフクラブ 支配人 中村 純男さん

「ここは練習場横のミニコース。年に2回、芝の整備をしますが、毎回イノシシに掘り起こされます。近所の猟友会の方に対応してもらっていましたが、亡くなられてからの2、3年はこのありさま。幸い、場内に現れることはありませんが、夜間駐車場の奥で姿を見掛けたことがあり、お客さまの車に被害が出ないか心配です。」



味見しておいしいものだけを選んで食べる。

イノシシ

不知火町大見区 永井 満さん



「毎年、早生ミカンの3割は食べられてしまいます。高いところの実も食べられ、枝も折られました。大見区では地域でチームを作って、対策をしていますが、住宅地でも見掛けるようになり、農家だけの問題ではなくなってきています。家庭菜園や残飯が餌付けにならないように全員で対策をしなければなりません。」



道路沿いには注意喚起の看板



地中の植物や虫などを掘り起こして食べる。目下には住宅街が広がっている。



シカ



シカが角をこすりつけると、そこから菌が入り木が腐っていく。

鳥獣対策とジビエの推進

県内の農作物被害額は例年5億円くらいで推移しています。近年では耕作放棄地が増えたことや、里山に手が入らなくなることで、人里と山の境目が下がり、イノシシたちは人里まで降りてくるようになりました。県では「えづけSTOP! 対策」を合言葉に指導者育成のための「実践塾」や、優良集落を「マイスター集落」と認定するなど、地域ぐるみの被害防止対策を推進しています。

また、捕まえたイノシシなどは「くまもとジビエコンソーシアム」に加盟する施設を中心に、野生鳥獣肉(ジビエ)として活用しています。

11月6日〜12月5日には県内レストランと連携し、「くまもとジビエ料理フェア」を開催します。おいしいジビエを味わい、理解を深めてみませんか。

くまもとジビエフェアはこちら



県農村振興局
むらつくり課
足達 雅人 技師



被害が深刻化 各地で悲鳴

農業被害は市内各地で起きている。また、イノシシやシカの車や電車との衝突事故も後を絶たない。

まずは知っとこ

深刻な鳥獣被害

増えるイノシシやシカなどの鳥獣被害は、耕作放棄や離農につながる。宇城市をはじめとする地方にとって、地域の活力を減退させかねない共通の問題。



市の特産品のデコポンも被害に。きれいに皮をむいて食べられた跡。

市農政課
富田 朗主事

市民全員で意識を高めよう

市は、「宇城市鳥獣被害防止計画」を策定し、被害状況を踏まえた鳥獣対策を進めています。

宇土半島で大量発生した特定外来生物のタイワンリスは、駆除に成功しましたが、イノシシは市内全域で年間を通して被害が発生。被害額も最多です。宇土半島での柑橘類への被害拡大が著しく、人的被害も懸念されています。シカは、松橋、小川、豊野地域で野菜や豆類、イモ類の被害が拡大。三角や不知火ですが、最近、目撃情報があり、被害が起きている可能性もあります。猟友会など関係者と連携し、被害を予測しながら、効果的に捕獲体制をとっていきます。耕作放棄地に残る果樹や庭に放置した生ごみが鳥獣の餌になります。餌付けにつながらないように管理をお願いします。

